



担い手通信



JA bank Mic

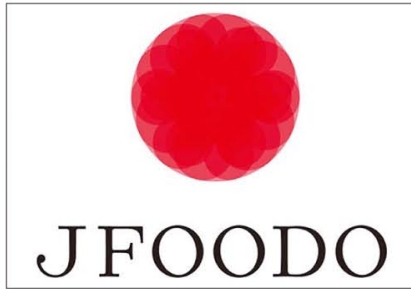
Topic

今月の話題

日本食品売り込みへ新組織 効果的な販促探る 海外向け消費戦略

政 府は4月1日、農林水産物・食品の輸出拡大に向けて販売促進を強化するため、日本貿易振興機構（ジェトロ）内に新組織「日本食品海外プロモーションセンター」（JFOODO）を設立しました。民間から積極的に人材を登用し、海外の消費者に日本産が欲しいと思わせるPR戦略を展開します。伸び悩む輸出額を押し上げた考えです。センター長に伊藤忠商事の小林栄三会長を充てます。

組織は50人体制で、本部以外に海外や国内主要都市に拠点を置きます。食品



日本食品海外プロモーションセンターのロゴ

業界や広告代理店など、食品販売やPRに精通した人材を民間から登用します。名称には「食の道」や日本の風土をアピールする意味を込めました。

山本有二農相は新組織立ち上げを受け、「リンゴ一つ、魚一匹が余分に売れることが実感できるような目指したい」と輸出拡大に意欲を示します。

国や自治体による従来の

販売促進は単発の見本市や商談会にとどまり、消費者へのPRが不十分なケースもあります。現地に価値が浸透しなければ、安売り競争に陥る恐れがあります。

新組織は、日本産の品質や食べ方などを伝えて現地や日本産が欲しいという需要をつくり出した上で、効果的な販売促進に取り組みます。ある程度品目を絞り込み、集中的に販売促進を展開する方針。新体制が固まり次第、早急に具体的な戦略を立てます。

政府は農業競争力強化プログラムで、フランス政府の輸出促進機関だったソペクサにならった組織の設置を決定。ソペクサはフランスワインを日本に定着させた実績があります。近年はインターネッ

ト交流サイト（SNS）や消費者イベントを活用し、日本でメキシコ産アボカドの販売促進を展開しています。

数字でみえる 三重県の農と食

三重県の29年度農林水産業費(当初予算案)

三重県の29年度当初予算案の農林水産業費は282億円(三重県ホームページ)。一般会計の総額は7011億円で、農林水産業費の全体に占める割合は4%となっています。当初予算案には「ポストサミットの取り組み」として、「東京オリパラへの供給体制の構築」に4834万円、海外への販路拡大に1105万円を計上するなど、伊勢志摩サミットの経験を生かす新規事業を盛り込んでいます。

282

億円

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

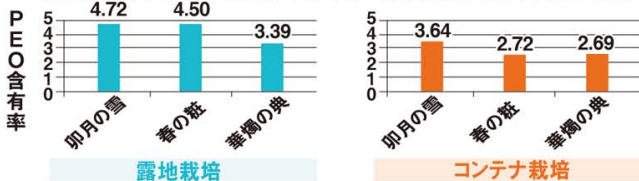
生薬シャクヤクの生産で「卯月の雪」など3品種の露地栽培を推奨

三重県農業研究所は、黒ボク土壌で生産する生薬「シャクヤク」の商標性を高めるため、品種の選り方と栽培方法をまとめました。品種は、入手が容易な切り花兼用品種の中でも、生薬成分PEO(ペオニフロリン)含有率の高い「卯月の雪」、「春の粧」、「華燭の典」を推奨。さらに市場価値の高い直根を得るためにはコンテナ栽培より露地栽培が適しているとしてい

高齡化の進展で生薬の需要は高まっており、シャクヤクは黒ボク地帯のある県北勢地域で栽培の盛んな植木類の代替品目候補となっています。同研究所は、黒ボク土壌を用い、コンテナで栽培した2年生株を、露地・コンテナでそれぞれ4年生まで栽培しました。露地栽培の方がPEO含有率は高く、中でも「卯月の雪」、「春の粧」、「華燭の典」のPEO含有率は、日本薬局方基準値(2・

0%)の1.5倍超ありました。シャクヤクの根の量に差はありませんが、コンテナ栽培の場合は根の伸長が阻害されるため、直根が得られず、商品性は劣りました。同研究所は、栽培にあたっては「薬用シャクヤク栽培マニュアル」の活用を推奨しています。なお、生薬生産は実需者が限定されていますので、生産にあたっては販売先との契約が必要と考えられます。

栽培条件による4年生シャクヤクの品種別PEO含有率(%)



お問い合わせ先 三重県農業研究所 花植木研究課 ☎059-370-4977

JAいがほくぶ

アスパラガス最盛 20トンの出荷見込む

三重県内最大のアスパラガス産地である伊賀地域で、出荷がピークを迎えている。ハウスや露地で順調に生育しており、作業のピークは5月の大型連休ごろまで続く。伊賀地域では現在、生産者45人が約6割で栽培している。主な品種は太く柔らかい身と甘さが特徴の「スーパーウェルカム」。100g当たり180円程度で取引されており、大阪や四日市の市場にも出荷している。同JA営農部の中川真一園芸担当は「露地物の出荷が少し遅れたが、今年は20トンの出荷を見込んでいる」と話す。(2017/4/22 ワイド1東海)

JA伊賀南部

作業受託や販売担う JA出資で法人設立

JA伊賀南部は4月3日、JA出資の農業法人「伊賀南部アグリ株式会社」を設立した。JA管内の名張市と伊賀市の旧青山地区で、農作業受託や農畜産物の生産、販売に取り組む。同社の大橋秀司常務は「地域の農業・農地を守るため、農家の支援を全力で行っていききたい」と話す。県内では、1JAが本体で農作業受託などの農業経営をしている他、2017年度の事業開始も含め、8JAが農業を営む出資法人を設立している(17年4月現在)。(2017/4/7 ワイド1東海)

JAグループ三重

菓子博 JAグループ三重 ブース出展

三重県伊勢市で4月21日から開かれている第27回全国菓子大博覧会「お伊勢さん菓子博2017」に、JAグループ三重がブースを出し、県産のミカンやイチゴ、伊勢茶などをPRする。菓子の原料に使われることの多い品目の趣向を凝らした展示を通じ、「菓子文化」の視点からも県産食材への親しみを広げていく。博覧会は4年に一度開かれ、三重県での開催は初。博覧会は5月14日までの開催で、期間中に60万人の来場を見込む。(2017/4/21 JA)

《金利情報》平成29年4月19日現在

農業近代化資金

実質金利
年0%~0.30%
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お得にお借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%
(変動金利)



農業を営むすべての方に

すべての農業者の実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

農業経営資金

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/> 平成29年4月現在